



戦時中や戦後に沖縄や全国で使われた代用品、転用品―沖縄市中央

村瀬さん (神奈川在) ▶ 沖縄市

戦中戦後の代用品贈る

来月7日から
企画展で公開

【沖縄】陶器でできた鏡もちやシユラルミン製のやかんなど、沖縄を後文化資料展示室ヒストリートしはじめ全国各地で戦時中や戦後間も「ぶんかん」で六月七日から公開する。市は「経済的、歴史的背景が表

陶器の鏡もち

木製ボタン

当時の生活物語る

品、転用品が、道真学会企画担当理れる代用・転用品を通し、戦争と平事村瀬春樹さん(天)神奈川県和を考えるきっかけにしてみられからのほど沖縄市に寄託された。ば」と話している。

市はそのうち七十点を、企画展「世戦時中に金属類の供出義務があったために金属が不足し、全国で代用品・転用品―真実を語る道

品が作られた。村瀬さんが寄託したのは、愛知県瀬戸市で作られた陶器の水筒やおろし金、木製の国民服のボタンのほか、食糧難をうかがわせる陶器製の鏡もちや、終戦間際に粘土で作られ未発行に終わった「一銭陶貨」など、時代背景を表すさまざまな代表品。戦後に戦闘機の残骸を溶かして作ったシユラルミン製の鍋や釜などは、沖縄でも使われていた。

問い合わせは沖縄市総務課市史編集担当 ☎098(939)1212 (内線2272)。